

くれない



武蔵野女子学院 同窓会くれない会

創立 90周年記念号



写真でみる本校の歴史

本校は一九二四（大正十三）年に創立されました。世界的な仏教学者であった学祖高楠順次郎博士は「仏教主義による、人間成就の教育」をその理念として掲げておられます。創立時は築地本願寺の境内で、仮住まいの校舎でした。その後一九二九（昭和四）年、現在地に移転しました。当時は周辺に住宅もほとんどなく、のどかな田園風景が広がっていたそうです。しかしほどなく本校にも、日本が突き進んで行った戦争の暗い影が忍び寄ってきたのです。授業もままならない日々の中、生徒たちは学徒動員へと駆り出されて行きました。そして一九四四（昭和十九）年十二月三日、本校に落ちた米軍の爆弾により、四名の生徒の尊い命が散華したのです。本校の歴史の中で、このことはもともと悲しむべきことであり、また永遠に語り継がねばならない歴史でもあります。

戦後は大学の設置からその共学化、さらに有明キャンパスの開設と学院全体は大きく発展しています。中学・高校も古くからの建物は姿を消し、新校舎の快適な環境の中で生徒達は勉学やクラブ活動に励んでいます。九十周年を迎えるにあたり、あらためて学祖高楠先生を始めとする多くの先人の苦勞を忘れることなく、未来への歩みを進めて行きたいものです。

くさか 秀昭

- ①戦前の校内
- ②学徒動員
- ③戦前の体育祭
- ④戦前の正門
- ⑤イチョウ並木
- ⑥現在の校舎
- ⑦今日の高校生

祝九十周年ご挨拶



武蔵野女子学院九十周年を迎えて

学校法人武蔵野大学 学院長 田中 教照

関東大震災の翌年にスタートした武蔵野女子学院は今年でちょうど九十歳、卒寿になりました。あと十年で百歳になります。

長命だといっても生身の人間ではありませんから、時間をつないでさらに未来へとつなげていくことを考えれば、九十年はまだ緒に付いたばかりといわなければなりません。

くれない会の会員のみなさまの数もまだ二万二千九八九名ですから、これが十万人を越えるようになるまで、卒業生を送り出すには、三五〇年以上かかるでしょう。

高楠順次郎先生や鷹谷俊之先生の時代の、高邁な理想に燃えた時代から今日の状況を見ると、隔世の感を禁じえない方もおありであろうと存じます。

一口に九十年といっても、その間には太平洋戦争もあり、先輩たちは、物心ともに不足のなかをやりくりしながら困難を克服して今日までつないでこられた九十年であったと推測するところではあります。

「女子にも高等教育を」という理想は、この間にかかなり実現してきましたが、諸外国に比べてまだ不十分です。その象徴に、世界では多くの女性が国のトップとして国際的に活躍していますが、日本ではまだ女性の総理大臣が実現していません。わたしたちも女性の政治家を育てるような教育をしてきたかと自問するとき、内心忸怩たるものを禁じえません。

政治は人間が生きていく社会の根幹をなすもので、生活を大きく左右する力をもっています。

ここに女性の能力を發揮していくことは、男女平等の社会を実現する上で必須でしょう。

また、インターネットが普及し、国際化が一気に進んだ今日、グローバルな視点で人類の未来を考える人材は日本のような島国にとつては特に不可欠です。内向きになりがちな気持ちを奮い立たせて広い視野からものを見ることのできる人材の育成は急がなければならないでしょう。

すべての人間は女性から誕生し、その人間に最初の教育を施すのは女性ですから、女性の見識は人類の未来を左右する重要性を有する、といわれています。したがって、社会を構成する男性も女性も、その基礎は母親である女性によつて作られており、社会の根本的なあり方は母親の考え方を反映しているといっても過言ではないとわたしは思っています。

伝統とは、改革の連続のことである、といわれた先人があります。わたしたちはこの言葉を胸に、生徒たちの十年後、二十年後の幸せを思いつつ、彼女たちが十年後、二十年後に街頭に迷うことがないように、今しておくことは何か、をつねに問いつつ、絶えざる改革を続けていくことが伝統の形成であると痛感します。

百年は言うに及ばず二百年、三百年と女子学院が連続して無窮であるように、改革に精進していかなければなりません。卒業生のみなさまの倍旧のご支援をお願いします。

(くれない会名誉会長)



百周年に向けて

中学高等学校校長 望月 伸造

二週にわたって経験したことのない大雪にみまわれた二月でしたが、会員の皆様はいかがお過ごしでしたでしょうか。中高は、授業打ち切り・休校で対応しましたが、幸いにも怪我をした生徒もなく、また入学試験も影響を受けずに無事に終わることが出来ました。

さて、二十五年度は皆様にとつて懐かしい校舎を解体した年になりました。六年前に西館を建設した際、南館(中学校舎)と東館(二十数年前は事務室、校長室等が入っていました)は西館の完成後取り壊す予定でしたが、耐震工事もしてありましたので使い勝手がよく、クラブ部室や面談室など様々な用途に利用していました。しかし、使用制限年数の五十年が迫り、名残惜しいのですが長年の使用に感謝する法要を営み、解体いたしました。

正門から銀杏並木を通り、図書館の角を曲がると正面に見える茶色のタイルが外壁の東館と、天気の良い日はベランダから生徒たちの笑い声が聞こえてきた南館が無くなり、すっかり景色が変わってしまいました。寂しさはありますが、広々とした空間が広がり、あらためて自然に囲まれた学院の豊かさを感じます。

今年度、武蔵野女子学院は創立九十周年を迎えます。八十周年は多くの皆様にご来校いただき盛大にお祝いをいたしました。九十年は百周年に向けてのステップとして特別な式典は行いません。しかし、中高東館・南館跡地や大学3号館跡地を中心とする「武蔵野キャンパス緑化計画」を九十周年記念事業としておこないます。美しい環境を維持し、豊かな心を育む自然をこれからも守ってまいります。

本年度、中高の生徒募集は大変厳しいものになりました。仏教の教えに基づいた、品格あるしなやかな女性の育成を教育目標に掲げて生徒の指導に打ち込んできましたが、少子化、高校授業料無償化、経済状況の悪化等、私立女子校を取り巻く環境はなかなか好転しません。しかし、多くの方々から高い評価をいただいている本校の人格教育をなお一層充実させ、現在取り組んでいる理系女子、国際感覚を身につけた女性の育成を進展させ百周年に向け教育内容で注目される学校を目指してまいります。会員の皆様のご支援ご協力をお願いいたします。

(くれない会顧問)



創立九十周年を迎えて
くれない会会長 高校十六回生 阿部 美枝子

同窓生の皆様にご挨拶申し上げます。
平成二十五年六月の総会で第六代目会長に選任されました阿部美枝子でございます。また事務局のメンバーも変わりましたが、下記のようになりました。どうぞよろしくお願いたします。

私は一昨年(平成二十四年)母校の教員を退職いたしました。約三十五年間奉職しまして、そのうち十六年間国際理解教育に携わってまいりました。

本学院は今年創立九十周年を迎えました。高等女学校は二十二回生まで、高等学校は今年で六十五回生までで、卒業生総数は二万二千九八九名の多数を数えます。

表紙の説明にありますように、本学院は大正十三年に築地からこの武蔵野の、何もなかった野原に建設されました。

緑豊かな今日のキャンパスも、多くの方々が教育の杜を夢見ていろいろな樹を植えて下さったお陰で、今私たちは梅・桜・大山木・いちよう・桑等四季折々を楽しむことができ、恵まれた環境で学業に励むことができます。

この九十年の歴史の中には戦争という避けられない辛い思い出もあります。表紙のハチ巻きをした生徒の写真岩崎政子(旧姓竹下)さんのように中島飛行機武蔵製作所等に勤労働員されたり、空襲のため学校の防空壕に退避しようとした四人の生徒を爆弾で亡くすなどしました。戦後七十年近く経った今、学院内は当時と全く変わりました。ただ、いちよう並木だけは今も変わらず

ず残っています。

いつまでも心に残るのは、春には新緑で美しい、秋には金色に輝くこの並木道。約九十年前に一本一本植えて下さった人々の心の優しさが今も伝わってくるようです。

本校のこの九十年の歴史と、慈愛と優しさの女子の学び舎の伝統は、創設者、教職員、卒業生など先人各位が営々と築いてきた涙と汗と努力の結晶によるものと深く感謝申し上げます。

少子化等の社会的影響もあり、現在武蔵野女子学院中学高校は入学者数の厳しい状況下にあります。本校同窓生としてもこの歴史と伝統を大切に継承していかねければならないと思います。

今後同窓会としてどのような役割を担っていくことができるか、できることを提案し実行して行きたいと考える所存です。くれない会の皆様、どうぞよろしくご指導下さいますようお願い申し上げます。

同窓会くれない会
役員・事務局一覧

会長	阿部 美枝子	高校16回生
副会長	亀澤 佳子	高校19回生
事務局	市川 恭子	高校30回生
	関根 仁美	高校30回生
	尾澤 のり子	高校35回生
	山本 佳子	高校12回生
会計監査	高田 悦子	高校20回生



祝創立九十周年
元家庭科教諭 尾崎 芳子(竹内)

昭和二十三年三月、私は鷹谷俊之先生のお呼び出しを受け、武蔵野女子学院にご縁が出来、四十数年お世話になりました。校門脇に大きな爆弾の穴。校舎は黒白の迷彩が残り、ガラスの破損、机・椅子の不足等、何にも増して壕での若き四名の方の犠牲。

住宅難から教室に住まわれる先生方も居られ、疎開から戻った生徒もいて、在籍数も増え、次第に活気が出てまいりました。

鷹谷先生は、杉並から校長住宅に移られ、焼失した千代田女専の九月からの授業再開に、そしてその後も正に筆舌に尽し難いご苦労を重ねられました。

俸給が遅れたり、二度に分けられたり、家庭持ちの先生方は大変苦労されたようでした。

今の幼稚園、グラウンド辺りには、野外劇場・栗林などがあり、友人と散策する生徒の姿も多くありました。当時、暖房はダルマ型石炭ストーブで、教室毎に煙突があり、拾った栗を葉缶に入れて楽しんで生徒も居りました。

制服は揃っていませんが、修学旅行も始まり、前の学年は東北、私達は関西でした。若輩二名の担任に、千輪慧先生が加わって下さいました。東海道線は汽車、今のSLで座席は三人掛け、酔客が生徒達に近寄るので、その境に私が座り、どれ程の効果があったことでしょうか。

昼食用のパンは、当番が級をまとめ、売店に申し込み、異物混入があると、先輩先生と共に工場を見に行く係もいたし

ました。

現在の大学側の池の辺りがグラウンドで、体育祭は活気に溢れ、色別の対抗リレーは棒尾を飾る興奮に包まれました。お昼休みの仮装行列は、よくぞの工夫に感心したり、笑ったりでした。

さてここで、九十周年の事に触れたいと思います。

「むらさき会八十年誌、紫樹の鷹谷るり子先生の御文」に依ると、鷹谷俊之先生は、昭和二十五年、短大創立の際、同窓会を「むらさき会」「くれない会」と名付けられ(文省略)「両同窓会が何時までも仲睦まじく活躍することを念う」と言い置かれ「両会員が容易に利用可能な会館設立の必要性も強調されました」とあります。

学院創立五十年誌・八十年誌には、千代田女専は昭和二年、武蔵野女子学院は大正十三年の創設とのこと、そこには三年の差があり、今年九十周年は本来、中・高のものと言えますが、大正十三年、高楠順次郎先生の仏教主義女子大学のご構想は、三天新聞に載り、先ずは中等教育からと、高等女学校を築地の日赤病院跡に創設されたとのことでした。

同窓会館は勿論、来る百周年は、中・高を包含して祝賀してこそと思います。高楠・鷹谷二先生のご意志を、当然、尊重して頂くべきと考えます。

戦後の何程か思い付くことを記し、そして、現代どのように変わろうと、忘れてはならない御心を深く念い記した次第です。(千代田女専生活科卒)

同窓生訪問



現学校法人當麻学園理事長
當麻 喜代子
(高等女学校 16 回生)

武蔵野女子学院での思い出

学院で心に残っている思い出は、学長先生の御講話です。仏教の教え、人様に対する思いやり、感謝の心、皆様のお陰、父母への感謝、精神的な思いは自然に具わり、私の幼稚園教育の原点となり今もそれが生きています。当時女学校には地域からは四〜五人ぐらいしか進学しませんでした。東村山に住んでいて方言が多いので、言葉を話すのにも気を遣い、入学当初は口数も少なかったです。ある時先生から褒めて頂き、自信が付き、良いお友達にも恵まれ楽しい学校生活を送りました。

幼稚園を始めたきっかけ

子供が好きでしたので、小学校で二十一年教員をしましたが、感覚教育、あいさつや礼儀は幼児教育が大事と思い、幼稚園を設立しました。

幼児教育は人生の基礎づくりであり幼稚園は今後人生を歩む上で重要な教

育機関です。

幼稚園教育、幼児教育に信念と誇りを持って続けてきました。

働く女性として仕事をしていく大変さ

学校にいる時は、上司、同僚、後輩誰に対しても一般的な礼儀はすべきであると思いました。意見が違った時でも相手に恥をかかせるようなことをしてはいけないと思います。

昔幼稚園は今ほど重んじられていなかったのですが、先生も女性ですし、勤続年数が短く、先生の獲得には奔走しました。今は勤続年数も長くなっています。

後輩へ伝えたいメッセージ

互いに助け合い、先輩の良いところは見習い、子供に愛情を注ぎ、一生懸命やれば、子供は答えてくれる。そして、自信が付き、満足感も得られます。子供はひとりひとり皆違うので、良いところを見つけて褒めて伸ばしてほしい。幼稚園教諭は大変で大切な仕事です。少しくらいのことで辛くとも続けていくことで誇りと自信が付き、この仕事をして本当に良かったというときが、必ずくると思います。

プロフィール

東京第二師範学校卒業。小学校教諭を二十一年勤める。昭和四十年麻の実幼稚園を設立。現在学校法人當麻学園麻の実幼稚園の理事長を務める。大正十四年生まれの一八八歳。



現マノ料理学園園長
間野百合子 (田辺)
(高等女学校 17 回生)

武蔵野女子学院での思い出

同期生の人も少なくなりましたが、当時の学校での勉強ではなくて、工場に働きに行きました。紅雲台で先生に行儀作法を習い、ありがたかったです。自然に囲まれ、のんびりとした夢のような時代で楽しかったです。心豊かな良い教育を五年間していただいた中で、女子学院の精神である仏教の慈悲の心はいつも頭の中にありまして、人に対して感謝しながらお付き合いをしてきたせいか、沢山のお仕事をさせていただきました。

料理の世界に入ったきっかけ

女学校から上の学校へ進学するのは三〜五名位でした。進学し、栄養士になって、働きました。敗戦後に結婚しましたが、軍人の夫は職を失い、どん底からの結婚生活でした。「どうしたら日本が復興できるのか?」を考えると、「家庭の主婦が栄養失調の家族を救い、

健康にすれば日本が元気になる」と思い、ご近所の方々をお呼びし、台所からスタートしたのが始まりです。

働く女性として仕事をしていく大変さ

絶対に大変です。しかし、環境の問題、親の協力、お手伝いの方を頼むなどで男並みに働けます。私も仕事が忙しくなり、お手伝いさん、夫、住み込みの助手さんに助けられました。何のために仕事をするのかを考えてほしいです。子供にとって母親は大事なことで、ぜひ四歳までは親が子を育ててあげて欲しいと思います。

後輩へ伝えたいメッセージ

戦争を経験した世代は、一生懸命努力をしてきたと思います。苦労をしすぎた世代なので、子供を大事に大切に育てたので、その子供たちは教育も文化もすばらしいものになりました。しかし不景気のせいなのか、親世代の反動なのか、さらにその子供たちは就職難や未婚の人が増えています。国や六十代の人がバックになって、後押しをして環境を作り、上手に教え与え、若い人々が希望を持ち、結婚して幸せになつて欲しいです。

プロフィール

軍の食糧栄養学校 (新宿淀橋) 卒業
陸軍経理学校の栄養士として勤務。
一九五三年マノ料理学園設立。
テレビ、新聞、雑誌など出演。
現在マノ料理学園園長として、料理教室の講師や、武蔵野市、東京都の講習会などで活躍中。
主な著書 「心やさしい豊かな粗食」
「葉いらずの簡単健康料理」等。



防衛省航空自衛隊 渉外専門官
羽鳥 佑美
(高校52回生)

高校二年生のときにイギリスに一年留学し、将来は人の役に立てる仕事になりたいと思うようになりました。卒業後、上智大学に入学。百貨店で二年間、弁護士会で四年間、勤務しながら勉強し、国家公務員を目指しました。貧困に苦しむ人々を救うODAの仕事をしたと、考え外務省を志しましたが、大震災がきっかけで、防衛省を受験しました。

昨年四月、防衛省に入省。航空自衛隊の語学職の事務官として、那覇基地に配属されました。自分が『自衛隊員』になるとは。自衛隊といえど迷彩服を着ているイメージですが、自衛官が迷彩服、事務官は私服です。九割以上が男性の職場で、様々な違和感を覚えながら、仕事を覚えるのに必死でした。

英語は学校では得意科目、というレベルで、通訳などしたことがありません。が、配属されてみればいきなり渉外専門官。通訳の仕事も盛り沢山でした。

困ったことに、軍事英語は普通の英語とはまるで違いました。ある日、上司からメールがきて、Copy thatと書いてあり、添付ファイルを印刷してこ

ピーし、二部を上司へ。大爆笑されました。メールは部下の私に内容を把握させるために送っただけで、「コピー」は「了解」という意味だったのです。それは単なる一例で、軍事英語は数多くあります。エンゲージ（婚約する）は「交戦中」、シアター（映画館）は「戦闘地域」、バッテリー（電池）は「小隊」など。最初は会話が全く分かりませんでした。

私の仕事は米軍渉外です。自衛隊には陸海空があり、米軍には陸軍・海軍・空軍・海兵隊と四軍あります。軍人は階級をつけて呼ぶのが常識ですが、階級は軍によって違うので煩わしく思いました。軍事に興味がなかった私は今、戦闘機を見て何の機体かが分かり、迷彩服を見てどの軍かも分かります。一年前の私には途方もなかった軍人との調整や訓練の通訳も、こなせるようになりました。失敗談のネタ帳作りも始めました。

どの部隊もチームワークが良く、一人の力は小さくてもチームになると大きな力になるのだということを実感できる職場です。苦労することも多いですが、できる・できないではなく、やるか・やらないかが大事で、努力する姿を見て、信頼が生まれるのだと思います。

今の私があるのは、高校の時の留学経験があったからです。お世話になった先生方にいつまでも感謝しつつ、渉外専門官として、いざというときに役立つように精進したいと思っています。

先生お元気ですか？

元体育科教諭 菅野 浩子

皆さん、お元気ですか。私が退職して早十年が経ちました。

在職中の思い出として、私が四十代の頃クラスを持った時に、理科室の落書き事件がありました。机全部に落書きがされて、あまりのひどさに保護者を呼び出しました。その間、立たせていた五〜六人の生徒が勝手に机をふき始めたので、そのうちの一人の頭を



たたいたら、びっくりして目を丸くさせました。落書きにびっくりしたその保護者に、「家で頭をはいたりすることがありますか」とたずねた

ら、「家ではありません」とのことだったので、その生徒はびっくりしたらしいのです。

それをきっかけに、私は指導の仕方を変えました。一人一人を見て、ワンクッションをおいて接することにしたのです。家庭環境や育てられ方など、一人一人違うので、それを考えて接するようにしたので、時代が変わってピンタもできなくなりました(笑)。今、以前の生徒達に会うとずるいと言われます(笑)。

女子学院に来て、「ご縁を大切にしなければいけない」ということを初めて教わりました。その言葉を今も大切にしています。そのご縁で退職した女性の先生達の会「華の会」を始めて九年目になります。これからもこのご縁のつながりを大切にしていきたいと思っています。

宗教科教諭 艸香 秀昭

私が武蔵野女子学院の教壇に初めて立たせていただいたのは、一九八〇(昭和五十五)年六月のことでした。宗教科の教育実習生として本校にお世話になったので

す。その後大学院の修士課程を修了したところで、当時の勝田宗智校長先生に声をかけていただき、一九八三年に宗教科の非常勤講師として勤務することとなりました。翌一九八四年専任となり、配属されたのが中学二年の副担任でした。その時の学年は体育の菅野先生、国語の高木先生、英語の富岡先生、数学の城田先生(当時はまだ二十代!)とそうそうたる顔ぶれで、

先生方から多くのことを学ぶことが出来たのは、非常にありがたいことでした。ま

た、旧第一講堂での最後の講堂朝拜がこの年の一学期まで行われました。階段を上る時のミシミシとした音と、小さなオルガンの音色は今でも記憶に残っています。

ここ数年は親子二代にわたって教科や担任を受け持つことも多くなりました。昨年の十一月には私にとって初めての卒業生であった平成三年度卒の同窓会が開かれ、また今年一月には平成二十三年度卒業生の成人式兼同窓会も開かれました。両会共に非常に盛り上がり、楽しい会となりました。

時を超えて卒業生の皆さんと「今」を共有できるのは、武蔵野女子学院なればこそ「仏縁」ではないかと思えます。これからも常に報恩感謝の心を忘れず、勤めさせていだきたいと考えております。

箏曲部OG会

高校二十四回生（昭和四十八年卒）

加納 規子（佐藤）

十一月十六日紅雲台で箏曲部顧問をされていた佐藤先生、今期顧問を退任される望月先生を交えて、箏曲部の卒業生の会「OG会」が行われました。

活動の主なもの、夏の合宿に参加して在校生の練習補助をしたり、箏曲部の演奏会に参加し演奏をするなどです。卒業したばかりの若い人から、もう孫がいる人まで、親睦を深めながら、一緒に演奏出来ることはとても楽しく、有意義な時間です。今年の演奏には十二人が参加し、その後の茶話会には二十二人もの人達が集まりました。「OG会」があることで、在校生達が心置



きなく活動が出来、自分達が卒業した後は、次の世代を援助する心が引き継がれ、永く伝統が培われています。

同期会

高校六回生（昭和二十五年卒）

井口 紀子

平成二十五年、六月三十日（日）吉祥寺「聘珍樓」で同期会があり、尾崎先生ご出席のもと、和気あいあいの会でした。私どもあつと言う間の喜寿をむかえ、これからもまだまだ元気ではないです。

そして、高女十五回生のおば、佐藤智子（海老沢）は、米寿。今も某句会に所属。頭は冴え渡り、私は時々ハッパをかけられている有様です。

広場

同期会

高校十六回生（昭和四十年卒）

大藤 潤江（坂田）

平成二十五年八月八日（土）
高三百組（十八名）出席

同級生阿部美枝子さんのくれない会長就任を拍手でお祝いの総会から始まり、あわせて延江先生傘寿のお祝いの食事会を、吉祥寺「聘珍樓」で十七時から行いました。半世紀ぶりの出会いもあり、遠く岡山、奈良からの参加もあり、あつという間の楽しい時を過ごしました。クラスの方々それぞれ、芸術に、仕事に、介護に頑張っておられます。

次回、古希の学年会には多くの方々が出席できますよう、願っております。



6/8 「聘珍樓」にてクラス会

今井先生を囲んで

高校十九回生（昭和五十三年卒）

櫻井 水絵（大川）

「深き御法にああいまつるうし身みの幸、なあとたとおおべきい♪」

季節外れの夏日の十月十二日、懐かしい学内七号館五階から響くは、紫組の昭和の乙女達十八名（先生を含む）の歌声である。続いて「春むうさあしの若みどり」と校歌も聴えてきた。皆よく覚えていたものと感心。そうそう我が紫組は、合唱コンクールでは「山の息吹」を三部合唱し優勝している。歌ばかりではない。「ベルサイユのばら」「レディミッコ」とイケメンの男役が居たので、今はなき雪頂講堂で演劇の上演もやってのけた。新卒の先生への歓迎の意であるいたずらも真剣に（？）皆で行った。とにかく結束力が強く、皆で何でもやってみようというクラスだった。樹華祭では下町のお祭りをコンセプトに、教室に畳を敷き、こたつを持ち込んで、取材班は都電に乗り、実際に下町風情豊かな界隈を写真に撮り展示した。確か、かなりの評判だったと記憶している。折りしもクラス会当日は、樹華祭真っ只中。明るく賑やかな平成の乙女達の声も心地良かった。

それもこれも今井先生が担任だったからに他ならない。「はい。ではやってみましょう」と、合唱の練習にも、



樹華祭の準備にも演劇の時もとても協力して下さった。流石にいたずらの数々では、ご心労をお掛けしてしまっただが……。

素晴らしいクラスだった。紫組として過ごせた日々を宝物だと改めて感じる事が出来た。幸せな時間はあっという間に過ぎていった。学内でクラス会が開けて大正解だったと思う。散会后、憧れの的だった体育の原田先生（現中高事務室主事）に樹華祭会場を案内して頂いた。制服が変わり、校舎も新しくなったが、先輩として、平成の乙女達が五十を越えた頃にこの「今」を宝物だと感じてくれると願わずにはいられなかった。きっと感じてくれるに違いないと確信しつつ正門を出た。

今井先生に感謝。合掌。

会員の

高二黄組クラス会

高校三十一回生 昭和五十五年卒

中村 千春（丸山）

平成二十五年六月一日に、新宿「今半」にて三十一期高三黄組のクラス会を開催いたしました。およそ三年半ぶりのクラス会（前回は藤組との合同クラス会として開催）でしたが、十五名の懐かしい顔ぶれがそろいました。

当日は、柴田雅子先生をお迎えし、文化祭で作った映画や、クラス文集など、高三時代の話が尽きないのもちろんのこと、半世紀の人生を過ぎた今現在の活躍の様子などの話で、大いに盛り上がりました。

また、柴田先生から、前回のクラス



会で撮影された、プロ級の腕前のお写真が披露されるなど、楽しい時間があったという間に過ぎてしまいました。当時の仲間との強いつながりを感じられるひと時でした。

早い時期に、クラス会でまた楽しい仲間と再会したいと願っています。

会員からのお便り

◆高女4回生 猪狩 トシ子（北村）
99歳となりましたが、地域の皆様のお仲間に入れて頂き、楽しく過ごさせて頂いております。

◆高女7回生 四方 正（五井）
お陰様で、元気に感謝の生活を送っております。

◆高女15回生 戸田 静子（関根）
女学生時代を懐かしんでおります。

◆高女16回生 岡部 喜久枝（岩崎）
千代田女子専門学校をひきついで武蔵野大学もでき、両校を知っている者にとって大変うれしく思っています。

◆高女18回生 小園 暁
「女子学院と私と」菊地トシ子さんの文章に心打たれました。同じ工場で働き、私は肺結核になり卒業式も出席出来ず過ぎた昔を思い出し、現在84歳悪い所だらけの身ですが、生きている幸せを毎日有難く思います。

◆高女18回生 飯屋 保子（中島）
元気で福岡におります。

◆高女19回生 桃田 啓子（木庭）
同窓会、クラス会がなくなり淋しくなりました。

◆高女21回生 島袋 摩古（小沢）
高女時代、書道を教えていただきました鷹谷るり子先生の訃報をくれない会報で知り、ご冥福をお祈り申し上げます。

◆高女22回生 笠木 小松（井出）
この度60余年ぶりになつかしい母校のすぐ近くに戻ってまいりました。

◆高校3回生 前田 穂子
武蔵野のかがやいていた友の近況に胸はずみ、思いがけぬ友の訃報に心よりお祈り出来るのも、母校のご発展のおかげ様と感謝しております。

◆高女21回生 島袋 摩古（小沢）
高女時代、書道を教えていただきました鷹谷るり子先生の訃報をくれない会報で知り、ご冥福をお祈り申し上げます。

◆高女22回生 笠木 小松（井出）
この度60余年ぶりになつかしい母校のすぐ近くに戻ってまいりました。

◆高校3回生 前田 穂子
武蔵野のかがやいていた友の近況に胸はずみ、思いがけぬ友の訃報に心よりお祈り出来るのも、母校のご発展のおかげ様と感謝しております。

◆高女21回生 島袋 摩古（小沢）
高女時代、書道を教えていただきました鷹谷るり子先生の訃報をくれない会報で知り、ご冥福をお祈り申し上げます。

◆高女22回生 笠木 小松（井出）
この度60余年ぶりになつかしい母校のすぐ近くに戻ってまいりました。

◆高校3回生 前田 穂子
武蔵野のかがやいていた友の近況に胸はずみ、思いがけぬ友の訃報に心よりお祈り出来るのも、母校のご発展のおかげ様と感謝しております。

◆高女21回生 島袋 摩古（小沢）
高女時代、書道を教えていただきました鷹谷るり子先生の訃報をくれない会報で知り、ご冥福をお祈り申し上げます。

◆高女22回生 笠木 小松（井出）
この度60余年ぶりになつかしい母校のすぐ近くに戻ってまいりました。

◆高校3回生 前田 穂子
武蔵野のかがやいていた友の近況に胸はずみ、思いがけぬ友の訃報に心よりお祈り出来るのも、母校のご発展のおかげ様と感謝しております。

◆高女21回生 島袋 摩古（小沢）
高女時代、書道を教えていただきました鷹谷るり子先生の訃報をくれない会報で知り、ご冥福をお祈り申し上げます。

◆高女22回生 笠木 小松（井出）
この度60余年ぶりになつかしい母校のすぐ近くに戻ってまいりました。

◆高校3回生 前田 穂子
武蔵野のかがやいていた友の近況に胸はずみ、思いがけぬ友の訃報に心よりお祈り出来るのも、母校のご発展のおかげ様と感謝しております。

◆高女21回生 島袋 摩古（小沢）
高女時代、書道を教えていただきました鷹谷るり子先生の訃報をくれない会報で知り、ご冥福をお祈り申し上げます。

◆高女22回生 笠木 小松（井出）
この度60余年ぶりになつかしい母校のすぐ近くに戻ってまいりました。

◆高校3回生 前田 穂子
武蔵野のかがやいていた友の近況に胸はずみ、思いがけぬ友の訃報に心よりお祈り出来るのも、母校のご発展のおかげ様と感謝しております。

◆高女21回生 島袋 摩古（小沢）
高女時代、書道を教えていただきました鷹谷るり子先生の訃報をくれない会報で知り、ご冥福をお祈り申し上げます。

◆高女22回生 笠木 小松（井出）
この度60余年ぶりになつかしい母校のすぐ近くに戻ってまいりました。

◆高校3回生 前田 穂子
武蔵野のかがやいていた友の近況に胸はずみ、思いがけぬ友の訃報に心よりお祈り出来るのも、母校のご発展のおかげ様と感謝しております。

◆高女21回生 島袋 摩古（小沢）
高女時代、書道を教えていただきました鷹谷るり子先生の訃報をくれない会報で知り、ご冥福をお祈り申し上げます。

◆高女22回生 笠木 小松（井出）
この度60余年ぶりになつかしい母校のすぐ近くに戻ってまいりました。

◆高校3回生 前田 穂子
武蔵野のかがやいていた友の近況に胸はずみ、思いがけぬ友の訃報に心よりお祈り出来るのも、母校のご発展のおかげ様と感謝しております。

会員からのお便り

- ◆ 高校3回生 青木 あや子
歳を重ねても女子学院の中学高校時代の親友と三人で交流を続けています。
- ◆ 高校4回生 宮崎 安子
元気に過ごしております。
- ◆ 高校5回生 高西 晴美(山之内)
今年喜寿を迎えました。
- ◆ 高校5回生 種山 和子(寺島)
書道を続けています。
- ◆ 高校5回生 戸塚 雅子
5回生の仲間と楽しんでます。
- ◆ 高校5回生 河野 カツ子(吉田)
四人の子と仲良く、自分の人生、思い出を沢山作って返したいと思っております。
- ◆ 高校6回生 馬場 佳世子(石坂)
まだまだ元気で頑張っております。
- ◆ 高校6回生 佐藤 幸子
八木会長様がこの度ご勇退なさるとのこと。近畿支部会でお会いしてありがとうございましたが学院への熱い思い、美しいお姿が心に残ります。
- ◆ 高校7回生 小池 圭子(野地)
7期生みなさんお元気ですか？
- ◆ 高校9回生 藤 いう子(栗山)
緑いっぱいの自然の中で学友と過ごした時代が私共の財産と思えます。
- ◆ 高校10回生 田口 成子(沼保)
礼讃抄とお数珠を手にした後輩の方々の写真。後輩の方々もこの時間を大切に頂きたいと思えます。
- ◆ 高校10回生 平林 淑子(沢渡)
主人が穂高の町長、安曇野市長を15年間勤めやっとなり。自由になり、アメリカ、ドイツ、デンマークの親戚へ廻って来ました。
- ◆ 高校12回生 村山 泰子
勤務の帰り、懐かしい制服を着たかわいい後輩にすれちがいます。彼女達の楽しい笑顔に我が身を重めます。「どうぞ充実した幸せな学院生活を満喫してね」と念じ、心からのエールを送っております。
- ◆ 高校13回生 松野 正子(小山)
八木新子様 長い間大任を尽くされまして、ありがとうございます。
- ◆ 高校14回生 福嶋 玲子(兎玉)
八木会長には13年間、会の為尽力をいたしましてありがとうございます。
- ◆ 高校15回生 土田 丹智子(安達)
最近、台湾と日本を往ったり来たりです。
- ◆ 高校15回生 岩外 節子(窪倉)
昨年の秋、同期生の友人4人と銀杏並木に逢いたくなり、数十年振りに母校へ伺いました。
- ◆ 高校15回生 金子 弘子(斎藤)
「くない」No.34のお便り欄に同期の友が載っていました。
- ◆ 高校17回生 沢野 三枝子(北村)
ヘルパーさんに助けられながら、実母の介護を続けています。
- ◆ 高校17回生 亀山 静子(村山)
松芝苑グラウンドの桜はみごとで素敵でした。
- ◆ 高校17回生 廖サメス彩圭(唐生)
今年半分はオーストラリア、シドニーで過ごしております。
- ◆ 高校18回生 石原 加代子(山中)
島村先生がお亡くなりになり、とても残念です。
- ◆ 高校19回生 高麗 文代
高校19回生、高3白のクラス会が2月16日厳冬の日、立川パレスホテルで開催されました。
- ◆ 高校20回生 小室 朱実(東)
自分と、1人暮らしで病身の母の諸々の事で忙しく、病院通いの日々を送っております。
- ◆ 高校20回生 名取 朝子
女子学院の級友達は、曲名「ナポリ夢の町」から私を「ナポリ」と呼んでいました。
- ◆ 高校20回生 清水 幸代子(岡本)
八木会長様 長い間ありがとうございます。
- ◆ 高校20回生 田中 陽子(宮本)
3月まで地方公務員として勤務していましたが退職し、現在は地域に戻り、保護司として更生保護に尽くすことと思っております。
- ◆ 高校20回生 澤里 文枝(青木)
今年朝ドラ「あまちゃん」で久慈はフィバーです。
- ◆ 高校20回生 榎本 美恵子(細田)
数年ぶりに4月の「日曜講演会」に参加させていただきます。
- ◆ 高校20回生 遠山 信子(藤科)
毎年10月頃、クラス会を開いています。
- ◆ 高校21回生 志部谷 有規子(須藤)
今年も6/27スイス、ドイツ、オーストリア、世界遺産のドロミテへ行きます。
- ◆ 高校21回生 長山 いつ子(横山)
親や孫のことで忙しい日々の中、くれないを読み心が休まるひとときです。
- ◆ 高校21回生 齋藤 幸子(上野)
- ◆ 武蔵野女子学院で過ごした10年間
は、人生の6分の1です。楽しい思い出ばかりの年頃でした。
- ◆ 高校22回生 竹内 裕子(中村)
教員生活の定年をむかえました。秋の文化祭にはおじゃましたいです。
- ◆ 高校25回生 浅見 まゆみ(佐藤)
月に1回、劇団四季のミュージカルを楽しんでいます。
- ◆ 高校27回生 井口 恵理子
会長を務めるヨガの会も、今年で8年目をむかえました。
- ◆ 高校32回生 大川 直子(有田)
桜や紅葉の季節に友人と行きたいです。
- ◆ 高校33回生 木俣 潤(薬師神)
卒業してから30年以上の月日が流れ、何かの機会があれば、東京へ行かれるのに：と思っております。
- ◆ 高校35回生 島村 和恵(佐藤)
いつまでもMJが繁栄し続けてくださることを願います。
- ◆ 高校38回生 松原 路子(林)
いつもくれない会会報をお送りくださいます。毎回楽しみにしております。
- ◆ 高校39回生 水村 淳子
いつも楽しく拝読させて頂いております。母校の益々のご発展を、心よりお祈り申し上げます。
- ◆ 高校40回生 園部 小織
いつも楽しみに、懐かしく感謝しつつ読ませて頂いております。本当にありがとうございます。
- ◆ 高校47回生 中山 恵美子
昨年男子出産。毎日賑やかに過ごしております。

散華乙女追悼写真展および懇談会を実施して

くれない会 会長 阿部美枝子

私がこの学院に入学したのは戦後十数年経っていましたが、校庭の隅に大きな爆弾の跡があったことを今でも記憶しています。昨年、くれない会の納戸で戦前戦中の写真や学徒勤労動員となった生徒たちの日誌のコピーを見つけました。一面原っぱの校庭で運動していたり、制服を着て授業を受けている生徒、白い講堂と校舎、敵機から発見しづらくするために黒く偽装された講堂と校舎、鉢巻きをしてモンペ姿の勤労動員となった生徒たちの黄ばんだ写真です。日誌には、中島飛行機武蔵製作所で助手のようにして働いている様子が書かれていました。

それらを目にして、戦争という逃れられない環境の中で健気に生きていた生徒達の姿が目につかび、胸に熱く込み上げてくるものがありました。高等女学



校卒業生達が戦争体験を綴った文集には、校庭内の防空壕で爆弾によって亡くなった四人の友への悲しみがありました。



この歴史的事実や卒業生の思い

を、より多くの生徒・学生・教職員に伝えたいと考え、追悼会に先駆けて写真展を開催しました。元同僚の中出律さん、現役の松岡千里さんの紹介で「空襲を記録する会」から十点ほど記録写真をお借りすることができました。追悼会もご遺族、高等女学校時代の同窓生たち、他学年の同窓生や教職員等五十名以上の参列があり、好天にも恵まれ近年にない大きな会となりました。懇談会では高校三年生も参加して、戦争の悲劇を次の世代に語り継ぐという使命感が参加者一人一人の心に伝わりました。

散華乙女追悼会は毎年十二月三日雪頂講堂手前の石碑前で行われています。是非多くの同窓生の参加をお願いします。

散華乙女の追悼会

高校十九回生 亀澤 佳子(渡辺)

一九四四(昭和十九)年十二月三日、高女十八回生は校庭の防空壕に避難したが直撃弾により四名(当時十七歳)の若い命が奪われました。

以来、毎年十二月三日には学院としての追悼の法要が厳粛に執り行われております。

法要の後、くれない会主催の懇談会(参加四十八名)では二度とこのような戦争がお

こつてはいけない」「このような悲しみがあつた上に今日の学院があることを忘れてはいけない」等、貴重なお話を伺うことが出来ました。また今回初めて、追悼週間(11/22~12/4)として当時の資料の展示と写真展(雪頂講堂ロビー)を開催致しました。多くの方の目につれ有意義なものとなりました。ぜひ皆様のご参加をお待ち致しております。

訃報

(敬称略・回生順) 謹んで哀悼の意を表します。

元学院院长 大河内 昭爾	高女18回生 竹村 喜美子(吉田)	平成25年2月12日	高校7回生 磯崎 恵子(下田)	平成24年6月29日
前学院院长 濱島 義博	高女19回生 今井 清子	平成26年1月22日	高校24回生 田中 芳枝(浅見)	平成24年3月4日
高女3回生 首藤 芳子	高女21回生 瓜 谷 京(菊池)	平成25年10月2日	高校8回生 新川 恵子(高橋)	平成25年8月23日
高女7回生 高楠 光恵室井	高女21回生 吉田 幸枝(松崎)	平成24年11月12日	高校9回生 岡 恭子(天塚)	平成24年6月24日
高女10回生 土屋 俊子(関)	高女22回生 八木 登女(赤沢)	平成24年12月15日	高校16回生 青木 由美子	平成26年2月15日
高女11回生 矢作 嘉子(市瀬)	高女4回生 吉田 安江	平成25年9月4日	高校16回生 栗田 澄子(館山)	平成25年3月4日
高女13回生 佐藤 百代(尾崎)	高女4回生 興石 光子(上杉)	平成25年4月20日	高校17回生 桜田 久枝(渡辺)	平成25年5月2日
高女15回生 鈴木 一枝(泉谷)	高女4回生 宮崎 節子	平成25年4月6日	高校18回生 時田 涼子(国井)	平成25年10月11日
高女18回生 中村 和子(小鷹狩)	高女5回生 広瀬 成子(山崎)	平成24年12月10日	高校22回生 宮永 玲子	平成25年1月25日
	高校6回生 戸塚 洋子(風間)	平成25年12月4日	高校27回生 小笹 裕子(今岡)	平成25年1月25日
			平成22年8月2日	

中学・高等学校受験者の優遇措置について

武蔵野女子学院中・高等学校を卒業された方々や、在学している生徒の三親等以内または、本学幼稚園の卒園者本人、本学教職員の子女のうち、本中学・高等学校(進学コース)を第一志望と考えている方は、必ず「入試相談室」までご連絡下さい。受験の優

遇措置について具体的に説明させていただきます。また「入試相談室」では中学・高等学校の受験一般について、ご相談を承っております。どうぞ、お気軽にご来室下さい。入試相談室 電話 〇四二(四六八)三三七七(直通)

「くれない会バス旅行二〇一三」に参加して

高校二十三回生 松木 博子(山中)

今回の企画は、私が日頃から気になっていたスポットがセツトになった、またとないうれしい内容でしたので、発表があつてすぐ申し込みました。

旅行を終えて、それぞれをふり返りたいと思います。

まずは「武蔵野大学有明キャンパス見学」、到着して驚いたのは、広大な敷地にたたくも重厚な学舎の数々。まだ昨年開校したばかりですが、環境的な内容が最先端をいくすばらしいものでした。学生たちが日常利用している「カフェ」は一般の方々も自由に利用することができ、企業と大学との協働



など、社会人として今後自立するにふさわしいプログラムが他にもたくさん授業に盛り込まれています。あとは、いかに活用し、次につなげていき、母校の未来を明るく築いてくれることでしようという「期待」の二文字を心に刻んでキャンパスをあとにしました。

次に「浅草散策」、「東京スカイツリー」と続きます。

浅草は、外国人観光客と、地方からの修学旅行生の団体が目立ちました。両者のにぎわいから、いろいろな言語がとびかかっていました。

「東京スカイツリー」は、一見にしかずです。次にどんなに発展があり、変化していくのか、空の町々からながめる、地の町の検証は、何度足を運んでも、これからの二〇二〇年に向けても目が離せません。

今回はどのスポットも、次に大きく一歩前進中という共通の印象を持ちました。

特に「武蔵野大学有明キャンパス」は伝統のなかに近代の今の姿があり、このことは、たくさんの方の先生方、先輩方、関係者一同の母校への思いがあつたことを忘れてはいけなさと痛感した旅でした。

「くれない会」の役員の皆様方、ご同行された皆様、ありがとうございました。

近畿支部会だより

高校十六回生 藤尾 房江(浅見)

くれない会のみなさま、こんにちは！

第四十八回の支部会は、連日の猛暑もおさまりかけた九月二十九日、能登「加賀屋」の大阪梅田店で開催させて頂きました。

本部から阿部会長、亀沢副会長、市川様にご出席頂き、遠路広島から鷹谷先生ご夫妻もお顔を見せて下さいました。

長年支部会を続けてこられた高女卒の三名の先輩方と、総勢十八名でした。

話題は、近況報告、女子学院での思い出等、一年に一度の出会いとは思えない、打ち解けた雰囲気でも盛り上がりました。

来年の五十回目の支部会へのアイデアも出されて、改めて近畿支部の歴史の重みを感じました。

同時にこの回を継続していくことの難しさも伝わってきます。

支部の名簿には百名近くの方々が生籍しておられますが、毎年お顔を見せ下さる方々は限られており、寂しくなつていつております。愛知県以西沖縄県までということ、距離的なこともありますが、「欠席」の返信ハガキを見るたびに、当番も心が折れそうになります。

近県にお住まいの会員の皆さま、ぜ

ひぜひ一度お出かけ下さい。

阿部美枝子先生にお会いしたかったと返信ハガキに書いて下さった若い会員の方、家族の介護で出にくいとおっしゃる方も、なんとかやりくりしてお出かけ下さい。

皆さんの笑顔はあたたかいですよ。



第四十九回近畿支部会のご案内

日時

平成二十六年

九月二十七日(土) 正午より

会費

五、〇〇〇円

会場

大阪の新しい観光名所、日本一高いビル「あべのハルカス」の見晴らしのよいレストランを検討中。

近畿支部会員だけでなく、本部会員の皆さまも、大阪新名所において下さい。お問い合わせは、くれない会事務局まで。

平成24年度 決算報告

収入の部

単位：円

項目	A 予算額	B 決算額	差引額	備考
前年度繰越金	2,001,985	2,001,985		
入会金	3,705,000	3,705,000		247名
銀行利息 他	1,000	475		
寄付金	10,000	313,000		
雑収入 等	0	8,210		バスハイク残金
維持会費	2,100,000	2,178,000		
合計	7,817,985	8,206,670		

支出の部

単位：円

項目	A 予算額	B 決算額	差引額	備考
くれない会基金積立	1,100,000	1,100,000		
通信費	130,000	125,273		葉書・電話料他
会報費	2,400,000	2,203,566		印刷・発送費・封筒印刷他
総会費	60,000	47,276		2部出演料含む
会議費	90,000	80,685		むらさき会議他
講習会レク費	120,000	85,860		手芸講師お礼他
慶弔費	130,000	90,000		
渉外費	90,000	60,983		中元・歳暮他
近畿支部交流費	215,000	170,000		関西支部出張費・お祝い他
新卒関係費	210,000	201,845		260名 印鑑他
消耗品費	110,000	125,810	▲15,810	文具・タックシール他
交通費	380,000	292,960		
人件費	1,600,000	1,402,800		
振込手数料	210,000	212,570	▲2,570	維持会費振込料
予備費	70,000	386,300	▲316,300	エアコン
雑費	30,000	27,712		
小計	6,945,000	6,613,640		
次期繰越	872,985	1,593,030		
合計	7,817,985	8,206,670		

平成24年度 くれない会基金決算報告

収入の部

単位：円

項目	金額
前年度繰越金	64,235,123
入会金より基金積立	1,100,000
文化祭収益	178,269
受取利息	528,557
収入合計	66,041,949

支出の部

単位：円

項目	金額
武蔵野大学有明舎祝い	509,114
武蔵野女子学院へ寄付(くれない会事務室床改修)	1,500,000
振込手数料	1,260
支出合計	2,010,374

以上の通り報告致します。

平成 25 年 5 月 27 日

会計 小林 泰子

会計監査 堀越富美枝

松林喜美子

平成25年度 予算(案)

収入の部

単位：円

項目	平成24年度決算額	予算額	備考
前年度繰越金	2,001,985	1,593,030	
入会金	3,705,000	3,900,000	260名
銀行利息 他	475	1,000	
寄付金	313,000	100,000	
雑収入 等	8,210	0	
維持会費	2,178,000	2,100,000	
合計	8,206,670	7,694,030	

支出の部

単位：円

項目	平成24年度決算額	予算額	備考
くれない会基金積立	1,100,000	1,000,000	
通信費	125,273	130,000	電話・葉書他
会報費	2,203,566	2,300,000	印刷・発送費・封筒印刷他
総会費	47,276	60,000	2部出演料他
会議費	80,685	90,000	むらさき会議他
講習会レク費	85,860	80,000	手芸講師お礼・バスハイク補助他
慶弔費	90,000	110,000	
渉外費	60,983	70,000	中元・歳暮他
近畿支部交流費	170,000	200,000	関西支部出張費・お祝い
新卒関係費	201,845	180,000	218名 記念品他
消耗品費	125,810	200,000	文具・タックシール他
交通費	292,960	350,000	
人件費	1,402,800	1,400,000	
振込手数料	212,570	210,000	維持会費振込料
予備費	71,300	30,000	コピー機他
雑費	27,712	30,000	
次期繰越金	1,908,030	1,254,030	
合計	8,206,670	7,694,030	

平成25年度 文化祭会計報告

収入の部

バザー売上金

1日目	146,320
2日目	71,990
合計	218,310

支出の部

お手伝いの方の交通費・他	60,000
会場 茶菓子	6,618
消耗品(紙コップ他)	1,692
食事(おむすび)・お茶	29,436
合計	97,746

収入－支出＝差引 120,564

※収益金 120,564円は、くれない会基金に繰り入れました。以上の通り報告致します。

平成 25 年 10 月 18 日

会計 市川 恭子

尾澤 のり子

平成26年度 武蔵野大学「日曜講演会」日程表	月日	所属・役職	講師	講題	
時間：10:00～11:30 会場：武蔵野キャンパス 4月は雪頂講堂 上記以外は5号館 (グリーンホール) 総合事務課 TEL 042-468-3114	第559回	H26 4/27	学校法人 武蔵野大学 学院長	田中 教照	聴聞 ― 如来の声を聞く ―
	第560回	5/18	相愛大学人文学部 教授	直林 不退	ある節談説教者の生涯・神田唯憲略伝
	第561回	6/15	大阪大学大学院文学研究科 教授	平 雅行	親鸞のあゆみと流罪
	第562回	7/20	杏雲堂病院 緩和ケア顧問	種村健二郎	死ぬ苦しみからの解放と人間の成長 ― がん終末期医療のなかで ―
	第563回	9/14	筑紫女学園大学人間科学部 教授	中川 正法	いのちの受けとめ手
	第564回	10/12	武蔵野大学人間科学部 教授	小山 一行	ブッダ(仏)とダンマ(法)
	第565回	11/16	中央大学総合政策学部 教授	岩田 重則	「お墓」の歴史
	第566回	12/21	東京経済大学コミュニケーション学部 教授	柴内 康文	「きずな」の社会学(仮題)
第567回	H27 1/11	武蔵野大学人間科学部 教授	西本 照真	「華厳経」と大宇宙の中の私	
第568回	2/8	武蔵野大学 学長	寺崎 修	改革の原点	

※敬称略

ステップアップ奨学金

武蔵野大学では創立80周年を記念し、建学の精神の顕揚と優れた人材の育成に資することを目的として創設した「ステップアップ奨学金」を、平成26年度も公募いたします。

その他、応募の詳細については、大学のホームページをご参照ください。

<http://www.musashino-u.ac.jp/>

生涯学習講座

本学の建学精神である仏教と、仏教の影響を受けた能・狂言に関する講座のほか、文学、政治経済、心理、教育、環境、医薬学など本学の特色を生かした魅力ある講座を年間200講座以上開講し、好評をいただいております。入会金は不要です。

■ 三鷹サテライト教室 (JR三鷹駅北口1分)

平成26年度前期講座(抜粋)

講座名	講師名(敬称略)
サンسكريット語で読む『バガヴァッド・ギーター』	佐藤 裕之
仏教起源の意外な言葉	石上 和敬
浄土真宗入門 仏事 Q&A	前田 壽雄
大江健三郎 - 作品とその時代を読む	竹田 日出夫

など90講座以上

■ 千代田サテライト教室 (千代田女学園中学校・高等学校内)

(JR四ツ谷・市ヶ谷駅徒歩7分、東京メトロ有楽町線麹町駅・半蔵門線半蔵門駅徒歩5分)

※ご希望の方には「講座一覧表」をお送りいたしますので、お問い合わせください。

武蔵野大学 生涯学習 検索

平成26年度 ぐれない会教養講座

日程	講師	内容
5月15日(木) 13:30～	河村 昭代 株式会社ボンズ代表取締役 ファイナンシャルプランナー (CFP)	「一生にかかるお金の話」※
6月26日(木) 13:30～	池畑 芳子 池畑会計事務所 所長 税理士	「身近な相続」～もしもの時、貴女は
11月4日(火) 10:00～	間野 百合子 (高女17回生) マノ料理学園園長	「心にやさしい豊かな粗食」(マノ料理学園吉祥寺にて)
11月20日(木) 13:30～	マスミ オーマンディ パシフィックランゲージスクール副校長 PLS 英語教育研究所 所長	講演「文化とコミュニケーション～女性が幸せに生きていくには～」
12月11日(木) 13:30～	矢吹 春恵 (高校21回生) フラワーデザイナー アトリエプチブーケ主宰	クリスマスアレンジメント
2015年 2月5日(木) 13:30～	山路 智恵 (高校51回生) 山路智恵絵手紙美術館 館長	絵手紙作成

お申し込みは2週間前までに電話・FAX・メールにてお願いします。
ご不明な点はぐれない会までご一報下さい。 ※5月15日の講座は1週間前まで受け付けます。

ぐれない会

日帰りバス旅行

築地本願寺参拝と法話
皇居一周

日時 10月28日(火) 午前8時45分集合

集合場所 新宿西口

費用 8,500円

- 築地本願寺では礼拝と元本校教頭板垣先生御法話
- 「つきざ田村」で昼食。築地場外市場にて散策
- 皇居二重橋見学・皇居周辺を車窓より見学
- 「JPタワー KITTE」より東京駅舎展望見学

お申し込みは各自
ぐれない会事務局へ
電話・ファクス・メールにて
お申し込みください。

締切り
9/10

※但し定員になり次第締め切らせて頂きます。

文化祭へのおさそい

日時 10月11日(土) 11時15分～16時
10月12日(日) 10時～16時
場所 高校校舎

中高文化祭「樹華祭」でバザーを開催しております。
お茶処も用意しておりますので、お友達同士、お誘いの上、是非、母校に足をお運び下さい。

バザー用品の
ご寄付のお願い

- ◆衣類(新品)・雑貨・食器・食品(賞味期限内のもの)・手芸品等々
- ◆夏休み以外一年中受け付けております。

【連絡先】
〒202-8585 西東京市新町1-1-20 武蔵野女子学院同窓会ぐれない会
TEL・FAX 042-468-3161 E-mail kurenai@musashino-u.ac.jp
開室 月・木 午後1時～4時

武蔵野女子学院 ぐれない会 検索

総会のお知らせ

日時 6月14日(土) 午後1時30分～2時30分
場所 グリーンホール
議題 活動報告・活動予定
会計報告・予算・その他

～総会後のアトラクション～

- ◆午後2時40分～3時20分
- ◆本校合唱部と、顧問 杉浦みずほ教諭による歌曲目 「花は咲く」「初恋」「樹木の蔭で」 他

平成25年度ご寄付者

匿名 一名	高島様	H12 八木 新子様	J18 松村美穂子様	J10 土屋 俊子様 ご遺族
-------	-----	------------	------------	-------------------

個人情報取り扱いについて

ぐれない会におきましては、個人情報を会員以外には、お知らせしておりません。又、問い合わせ等は、相手先確認了承の上、対処しております。

名簿等発送するときは、責任者・幹事の方へ適切な対応をしております。

平成26年度 活動予定

- ① 会報「ぐれない」第35号、90周年記念号発行 5月31日(土)
- ② 委員会 6月14日(土)
- ③ 総会 9月27日(土)
- ④ 近畿支部会 10月11日(土)、12日(日)
- ⑤ 樹華祭(バザー)参加 10月28日(火)
- ⑥ 日帰りバス旅行 12月3日(水)
- ⑦ 散華乙女追悼会 2月末
- ⑧ 高校66回卒業生同窓会入会式 年2回
- ⑨ 「むらさき会」との会合
- ⑩ ぐれない会教養講座6回開催
- ⑪ 母校行事に出席
中学・高校入学式、同慶節、雪頂忌、彼岸会、散華乙女追悼会、中学修了式・高校卒業式

平成25年度 活動報告

- ① 会報「ぐれない」第34号発行 4月25日付
- ② 委員会 6月1日(土)
- ③ 総会 6月8日(土)
- ④ 近畿支部会 9月29日(日)
- ⑤ むらさき会との会合 年2回
- ⑥ 「樹華祭」にバザーで参加 10月12日(土)、13日(日)
- ⑦ 日帰りバス旅行 11月12日(火)
- ⑧ 散華乙女追悼会・写真展・懇談会 12月3日
- ⑨ 高校65回卒業生同窓会入会式 2月21日(金)
- ⑩ 手芸の会を7回開催
- ⑪ 母校行事に出席
中学・高校入学式、同慶節、雪頂忌、彼岸会、散華乙女の追悼会、中学修了式・高校卒業式